

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370900425		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームゆいとり		
所在地	岩手県一関市八幡町2番地14 (電話) 0191-31-6363		
評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通り3丁目19-1 3階		
訪問調査日	平成20年9月1日	評価確定日	平成20年10月8日

## 【情報提供票より】(平成20年8月1日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 4.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	14,400 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 8月 1日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋保クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームゆいとりは、社会福祉法人つくし会が運営する事業所のひとつである。JR一ノ関駅から徒歩5分程、街の中心地にあり、商店街への外出も容易である。二階建ての木造古民家を改築してのホームは段差や急勾配の階段があるが、利用者にはなじみの場所として心地よい環境となっている。近隣の自治会に加入し、回覧板やホームの広報誌の回覧、夏祭りへの参加などで、年々交流が深まっている。また、ホーム独自の「和・話・輪・笑」の4つのキーワードをもとに、職員・利用者が共有し、共生に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善点、終末期等への対応については、利用者家族から思いを聞き取り、その意向に添い、他施設に移っても関係の継続に努めている。また、職員全員で「ゆいとり」らしい看取りについて話し合いや研修に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は職員が中心となって自己評価に取り組んでおり、管理者が修正するところは殆んど無かった。更に、明文化することで新たな気づきがあり、その改善に向け話し合いを重ねている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	隔月開催の当該会議には、全委員が出席し、活発な意見交換が行われている。今年から、地区代表として、消防団長が参加しており、災害時の協力依頼が可能となった。会議資料は、行事や利用者の様子を写真で伝えて、より具体的な意見交換が出来るように配慮している。会議の内容については全職員で共有し、サービスの向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	自発的に家族会が結成され、家族同士の交流・意見交換を行っている。運営推進会議へも交代で出席し、家族としての集約された意見を述べ、サービスに反映されている。また、行事への参加が多い。意見や苦情があった場合は随時対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会へ加入している。回覧板やホームの広報紙の回覧、月1回のごみ拾い、お茶会などを実施しており、年々近隣と交流が深まっている。夏祭り時には七夕飾りを出品し、踊りやおみこしの見物に出かけている。利用者の外出時の買い物先となじみの関係も出来ている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービス理念を全職員で話し合い、ホーム独自の「和・話・輪・笑」の4つの具体的なキーワードを掲げ、取り組んでいる。このキーワードを利用者が「書」にして、ホーム内に掲げる予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が上記のキーワードを共有し、日常会話や職員会議で確認しながら実践に向け取り組んでいる。また、意識的にケアプランや行事に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入している。近隣の住民への理解を広報紙の回覧で周知し、月1回のゴミ拾いや夏祭りへの参加、ホームでのお茶会のお誘いなどで、年々交流が深まっている。利用者と一緒に回覧板を回しており、最近では、隣家の高齢者も遊びに来るようになってきている。先頃の地震の際は区長や近隣の見舞いを受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者だけではなく、他の職員も外部評価の研修会へ参加し、評価の意義について全職員が理解している。また、職員が中心となって自己評価について話し合い、認知症の対応の変化など、新たな発見が出てきている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催の運営推進会議には、全委員が出席している。今年から、地区代表として消防団長が参加し、災害時の協力依頼も可能となった。会議の資料も定例報告に加え、行事や利用者の様子を写真で伝え、より具体的な意見交換が出来るように配慮している。会議の内容は全職員で確認、共有し、サービスに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	食生活改善普及員による調理実習や、介護相談員とは、お茶会などで利用者とも交流がある。生活保護の担当者とは特に連携を密にし、利用者の利益保持に努めている。地域密着型サービスの集団指導にも参加し、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の様子を個別に手紙で知らせており、隔月で広報紙を送付している。家族来所時には写真やビデオの視聴、利用者との飲食で普段の様子を伝えている。金銭出納帳は確認の上、記名をお願いしている。利用者の状態変化時、通院後については、電話で連絡・相談・報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自発的に結成された家族会は、家族同士の交流、意見交換をしている。運営推進会議へも交代で出席しており、一泊旅行の取り組みなど、職員を思いやる提言も述べられており、一泊から日帰りへと切り替わった。また、他のホームの視察見学なども行い、自ホームへの再評価につながっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来離職者はなく、職員のチームワークが良い。利用者もなじみの人としての認識がある。夜勤に伴う増員、法人内での異動等の際は1ヶ月の引継ぎ期間を設け、利用者との馴染みの関係が失われないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や資格等に応じた研修に積極的に参加させている。外部研修にはデンマークへの視察、管理者、認知症介護実践者、実践リーダー研修、県グループホーム協会の学習会や、法人内の研修にも参加している。また、ホーム内では毎月職員が交代でテーマを決め学習しており、働きながらのトレーニングが確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、定例会には職員1～2名が参加。実践報告会では、事例発表も行い、同業者との意見交換、情報交換も積極的に行っている。交換研修や、他ホームへの見学で交流を図るとともに、その経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを見学してもらうことから始め、職員が自宅に出向いたり、遊びに来てもらったりすることを繰り返して馴染み、納得してからの利用となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に感謝の言葉を掛けながら、利用者は職員を励ましたり、助言をして、食事の準備をし、外出時のお弁当作り等を一緒に行っている。特に利用者の書については、外部の展示会に出品した作品が入賞し、共に喜ぶなど良い関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で利用者の希望や思いの把握に努め、言葉・表情を詳細にケース記録にまとめ、特に意思疎通困難者については、センター方式の「C-1-2」を活用し、日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のシートを活用し、利用者の隠れたニーズ、希望も把握し介護計画に活かしている。毎月のカンファレンスや、利用者の日々の変化に合わせて常に話し合いを持ち、計画に反映させている。センター方式の採用で利用者本位の計画に近づいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿ったケアが行われているかをケアチェック表で確認し、未実施が続いたり、必要性が無くなったり、新たなニーズが出た場合は、即、本人・家族と話し合いを持って、計画を見直し、現状にあった新たな計画を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、異常の早期発見、協力医の指示で入院の回避に努めている。商店街に近く、利用者の希望で買い物に出かける機会も多く、馴染みの店も出来ている。また、近所の高齢者の相談にも乗るようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の通院は家族が行っているが、状態変化時は職員も同行し、主治医との連携を図っている。また、家族の依頼による通院介助は、定期的に行い、受診結果はその都度家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、利用者家族から思いを聴取し、その意向に沿い、他の施設へ移った場合も関係の継続に努めている。また、職員全員で「ゆいとり」らしい看取りについて話し合いや、研修に取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者同士が一緒に過ごしている時の排泄等の誘導には特に声掛けの工夫や、さりげない対応に心がけている。また、個人情報の取り扱い、写真及び氏名の使用(掲載)に掛かる同意書を貰い、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調や希望を尊重し、食事の準備や、買い物、外食、散歩、自宅訪問など、本人主体にゆっくりとその日が過ごせるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回は寿司の日、餅の日など定例の日を設け、利用者も一緒に楽しみながら、準備、挨拶、後片付けなど希望する役割で参加することが励みになっている。食堂は狭いが、職員も一緒に大家族の雰囲気をかもし出して食を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて、毎日入浴できるようにしている。入浴拒否する利用者には、やさしい言葉掛けや歌で誘導している。支援が必要な利用者には、浴室に玩具を置くなどをして、楽しみながら入浴できるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的に、料理・歌・軽体操・読書・書道など、得意分野で一人ひとりの力を発揮し、生き生きと活躍できる場面作りをしている。また、ふれあい書道展で奨励賞を取った書をホーム内に掲示し、楽しい話題にしている。気晴らしの外出支援の機会を多くし、買い物先に馴染みの店も出てきた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	商店街へ近い立地条件を活かし、日常的に、利用者のその日の体調、希望に沿い散歩や買い物の外出する機会を多くしている。近くに自宅がある利用者の自宅訪問も他の利用者同伴で行うことで、ホームへの帰りがスムーズになっている。仲の良い利用者同士の外食支援もしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠はしていないが、外出行動のある利用者のため、安全面を考慮して玄関に施錠している。一時的な玄関として出入りを縁側に設け、他の利用者も家族も出入り自由になっている。利用者が不安定な時の外出希望は、安全面を確保しながら、散歩やドライブなど出来る限り対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、火災時の避難訓練を実施している。また、6月の地震の経験から、その避難訓練の方法を職員間で話し合い、利用者の状態に即した誘導の手順も確認している。地区の消防団長が運営委員になったのを機会に災害時の協力を依頼している。防災頭巾も作成し、準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や量、水分摂取の状況を毎日チェック表に記録し、職員が共有し、把握している。小食の方へはメニューを変更して食欲の増進を図っており、旬の食物を取り入れたバランス食を心がけている。3ヶ月ごとに栄養士から助言をいただき、病態食(減塩、適正カロリー、Fe添加)へも対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には百日花が咲き、食堂にはコスモスの花が飾られており、季節感を出している。書道展で入賞した「書」を表具して、利用者の談話室に展示し、自分の住んでいる家という意識を高めている。菖蒲湯、水木団子、お月見、七夕飾りなどの行事で季節感を味わう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に手すりを取り付けたり、寝床をベッドに変更するなど利用者の状態変化に合わせた工夫をしている。古民家の障子、襖、畳は利用者に馴染みの安心感を与え、居心地が良い。また、居室に使い慣れた寝具などを持ちこませるなど、環境に配慮している。		